

## 令和4年度事業報告書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

特定非営利活動法人ふるさと未来創造堂

### 1 事業の成果

令和4年度は、中期ビジョン「『つながる』『つなげる』『仲間と拓く』新潟の防災教育を、みな（学校・地域・家庭・行政・企業・NPO等）で創るふるさと共育にする」の実現に向けて、引き続き以下の3点を重点に様々な活動に取り組んだ。

- ・ より一層の連携・協働を進め、共感の輪を「ふるさと共育化」への推進力にする
- ・ 地域の教育力を結集し、学校防災教育をまちで支える仕組みを創る
- ・ よりよい未来の新潟を子どもと一緒に創る仲間を増やす

新型コロナウイルス感染症の再拡大に備えて、様々な状況への対応も含めた持続可能なプログラムづくりと環境整備に注力した結果、感染拡大化での事業継続とICTツールの活用に不慣れな学校や人の対応力を高める機会にもつながった。

また、「第27回防災まちづくり大賞（主催：総務省消防庁）」において、長岡市における持続可能な防災教育体制が「総務大臣賞」を受賞した。当法人が防災教育をきっかけに、学び合いによる地域一体での教育と共育社会の創造を目指し、人づくり・地域づくり・まちづくりに取り組んでいる団体であることを発信し、全国的な認知度と対外的評価を高めることができた。

更には、企業・学校・団体とSDGsをテーマにした学習機会のタイアップや、今とこれから教育と共育について大人が学び、考える全4回講座「まなびのミライ2022」を企画開催し、これまで接点の無かった30代から50代の延べ121名の受講者とつながることができた。

令和4年度に実施したふるさと未来創造堂の事業詳細については、別紙のとおり。

#### ① 学校防災教育の支援事業

##### 1) 地域防災教育事業（長岡市）【継続】

校区内に居住する学校の理解者としてのサポーター育成を進め、市内82校中72校に、サポーター（24名）を配置することができた。長岡版マイ・タイムライン「わが家の防災タイムライン（小学4～6年生用、中学生～大人用）の改定及び普及啓発に加え、教職員用の指導資料を作成した。

また、公共施設や商業店舗等に出向き、防災の啓発を行うサロン事業にて、（株）コメリに出展し、来店者に防災・減災の啓発を行うことができた。

##### 2) 南区内中学校・高校防災学習支援業務（新潟市南区）【継続】

区内の中学校を対象に、地域と連携した防災教育を実践した。今年度も新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナとする。）拡大時の開催もあったが、対策を講じながら防災士や地域住民を巻き込み、地域と共に学ぶ活動に取り組むことができた。

白根高校での学習支援は、新型コロナウイルス感染症の影響から中止となった。

##### 3) 西蒲区中学校防災体験学習及び事業の中間評価のための調査業務（新潟市西蒲区）【継続】

「福祉×防災」の視点での防災教育を地域の大人・防災士と中学生が共に学ぶ機会の提案と実践、コーディネートを継続した。また、学校防災教育の支援者の育成として、区内の防災士への研修会及びOJTにも取り組んだ。

- 4) 防災ワクチンTM 学習教材の開発支援業務（国立大学法人 長岡技術科学大学）【継続】  
昨年度実施した、指導者用教材資料の作成支援からの延長で、学習教材「ブレーカーキット」の製品化に向け助言等を行い、教材の完成を支援した。令和5年度からは、完成した教材を活用した防災教育プログラムを学校・地域等で開催していく予定。

② 地域及び家庭の防災教育支援事業 【継続】

- 1) 出前講座用プログラムの作成支援 【継続】  
ライフラインを取り扱い、地域密着型企業の特色を活かした防災を切り口とした出前講座プログラムの開発及び指導者用の教材作成支援を行った。
- 2) コミュニティ協議会や自治会、地域住民を対象に、防災訓練の企画運営支援、個別避難計画や地区防災計画の作成支援、洪水マイ・タイムラインを学ぶ講座等を行った。
- 3) 親子を対象に、楽しみながら学べる防災講座（防災グッズづくり・防災クイズ・避難所の防災備品の組み立てや紹介・非常食体験等）を実施した。
- 4) 子育て支援施設にて、母子向けの防災講座やイベントに出展し、防災講座を実施した。

③ 防災教育の推進に関する交流・イベント事業

- 1) 川口きずな館 防災イベント企画運営支援（長岡市）【継続】  
中越大震災メモリアル施設から親子向けの防災講座の企画や運営方法について相談を受け、親子が楽しみながら防災について学べる体験型のイベントの企画・運営支援を行った。
- 2) イザ！カエルキャラバン in くずまきの開催（見附市）【継続】  
見附市立葛巻小学校第4学年総合的な学習の時間の発表機会として、同校第3学年の児童を対象に楽しみながら体験的に防災を学べる機会を開催した。

④ 安心安全なまちづくり及び地域づくりの支援事業

- 1) 北区自治協議会提案事業「目指せ！地域防災力向上」（新潟市北区）【継続】  
楽しみながら防災・減災を学べるイベントを新しい防災訓練の考え方として地域に定着させ、持続可能にするために、今年度は地域コミュニティを対象とした研修会及びイベント当日の運営サポートを自治協議会委員・防災士と共に実施し、市民への広報用報告書を作成した。
- 2) 南区防災講座教材作成業務 【新規】  
担当課や区内の防災士による自主防災組織の訓練や勉強会、小学校等を対象とした出前講座の実施に向けて、講師が出前講座で使用する「読み原稿付きのスライドデータ3種（一般編・地震編・水害編）」を作成した。
- 3) 令和4年8月豪雨 災害支援 【新規】  
新潟県社会福祉協議会の要請を受け、令和4年8月3日からの大暴雨によって被災した村上

市の災害支援として、村上市災害ボランティアセンターの運営支援を行った。活動資金は赤い羽根共同募金災害ボランティア・NPO活動サポート募金（ボラサポ・令和4年8月豪雨）を活用した。

#### ⑤ よりよい未来を創る事業

##### 1) こども防災未来会議®2022 及びかべ新聞展示会の開催（長岡市）【継続】

新型コロナ感染症対策を徹底し、防災について学んだ子どもの成果発表と交流、創造の機会をオンラインとオフラインのハイブリッド形式のイベントとして開催した。参加校は5校と少なかったものの、応募作品数は88点、当日のライブ配信は140回再生された。

##### 2) 分水サミット運営支援及びモデル校のサポート 【新規】

大河津分水通水100周年事業の一環として、県内の信濃川流域（支流含め）市町村で川について学んだ学校を集めて開催する記念事業「分水サミット」の企画・運営支援及びモデル校2校の学習サポートを行った。

##### 3) 今とこれからの教育を大人が学ぶ勉強会「まなびのミライ」の開催 【新規】

長岡市でもCS（コミュニティ・スクール）が導入され、「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の実現を目指し、大人が今とこれからの教育を学び、交流する全4回講座を企画・開催した。延べ121人が参加し、好評を得た。

#### ⑥ 情報発信事業

##### 1) 動画コンテンツの作成・配信、情報発信支援 【継続】

(株)エヌ・シイ・ティと共同で防災に関する動画コンテンツの作成・配信を行った。

また、TeNYサービスとの共同企画で、番組枠の中でパッククッキングを紹介する番組作成を行った。

## 2 事業実施に関する事項

### （1）特定非営利活動に係る事業

（単位：千円）

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	受益対象者の範囲及び人数	支出額
①学校防災教育の支援事業	1) 地域防災教育事業 2) 南区中学校防災教室及び白根高校防災学習支援業務 3) 西蒲区中学校防災体験学習及び事業の中間評価のための調査業務	1)～5) 年度当初から年度末	1) 長岡市 2) 新潟市 3) 新潟市	5人 3人 2人	1)～5) 県内外の小・中学校、高等学校の教員及び子ども、保護者、地域住民、防災・教育関係団体	5,785 459 2,108

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	受益対象者の範囲及び人数	支出額
	4)防災ワクチン TM 学習教材の開発 支援業務 5)その他学校防災 教育支援		4) 長岡市 5) 全国	1人 4人		0 1,270
②地域及び家庭 の防災教育支 援事業	1) 出前講座用プ ログラムの作 成支援  2) 各種講座	1) 年度当 初から令 和4年7 月まで  2) 年度当 初から年 度末	1) 新潟市 2) 県内	1人 3人	1) 民間企業、小 学生 等  2) 県内の未就学 児、小・中学生、 保護者、地域住 民、防災・教育 関係団体 等	259 323
③防災教育の推 進に関する交 流・イベント 事業	1) 川口きずな館 防災イベント企 画運営支援  2) イザ！カエル キャラバン in くずまき	1) 年度当 初から年 度末  2) 令和5 年3月	1) 長岡市 2) 見附市	3人 1人	1) 長岡市内の 幼・保育園や小 学校に通う児 童と保護者等  2) 見附市内の小 学校に通う児 童と保護者等	132 2
④安心安全なま ちづくり及び 地域づくりの 支援事業	1) 北区自治協議会 提案事業「めざ せ！地域防災 力向上！」運営 支援  2) 南区防災講座 教材作成業務  3) その他講座支援  4) 令和4年8月豪 雨 災害支援	1) ~3) 年度当初 から令和 5年2月  4) 令和4 年8月から 10月	1) 新潟市 北区  2) 新潟市 南区  3) 県内  4) 村上市	2人 3人 2人 2人	1) 新潟市北区の 防災士、地域住 民 等  2) 新潟市南区職 員及び南区の 防災士 等  3) 県内地域住民 等  4) 村上市災害ボ ランティアセン ター及び地域住 民 等	885 540 273 192

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	受益対象者の範囲及び人数	支出額
⑤よりよい未来を創る事業	1) こども防災未来会議(R)2022 及びかべ新聞展示会の開催  2) 分水サミット運営支援及びモデル校のサポート  3) 今とこれからの中等教育を大人が学ぶ勉強会「まなびのミライ」の開催	1)、2) 年度当初から年度末  3) 年度当初から令和4年7月まで	1) 長岡震災アーカイブセンターきおくみらい他  2) 県内  3) 新潟市	16人  4人  1人	1) 県内の小・中学校の教職員と児童生徒、保護者、地域住民、防災・教育関係団体 等  2) 防災・教育関係団体 等  3) 民間企業、小学生 等	1,148  3,038  490
⑥情報発信事業	1) 動画コンテンツの作成・配信、情報発信事業	1)、2) 年度当初から年度末	1)、2) 全国	2人	1) 子ども、保護者、地域住民、防災・教育関係団体・企業 等	228

## 参考資料1 サポート実績一覧（2022.4.1～2023.3.31）

### 学校（小学校・中学校・高等学校・特別支援学校）及び教育委員会等

#### ○防災教育等に関するサポート 226校 8団体

講座、研修会等 114回      打合せ、相談、コーディネート等 延べ 260回以上

京都市立堀川高校 PTA	新発田市教育委員会 生涯学習課	新発田市青少年宿泊施設 あかたにの家
上越市教育委員会 学校教育課	(社福) 上越市社会福祉協議会	長岡市教育委員会 学校教育課
長岡市教育委員会 中央公民館	新潟市教育委員会 学校支援課	新発田市立の全 15 小学校
上越市立の全 70 小・中学校	長岡市立の全 82 小・中学校	三条市立第四中学校
三条市立月岡小学校	三条市立保内小学校	胎内市立黒川小学校
燕市立小池中学校	新潟市立味方中学校	新潟市立茨曽根小学校（新）
新潟市立岩室小学校（新）	新潟市立岩室中学校	新潟市立臼井小学校
新潟市立臼井中学校	新潟市立内野小学校（新）	新潟市立内野中学校（新）
新潟市立荻川小学校（新）	新潟市立小針中学校	新潟市立庄瀬小学校（新）
新潟市立白根北中学校	新潟市立白根第一中学校	新潟市立曾根小学校
新潟市立月潟中学校	新潟市立中之口中学校	新潟市立新飯田小学校（新）
新潟市立西内野小学校（新）	新潟市立西川中学校	新潟市立白南中学校
新潟市立巻西中学校	新潟市立巻東中学校	新潟市立巻南小学校
新潟市立升潟小学校	新潟市立鎧郷小学校	新潟県立新潟県央工業高等学校
見附市立今町小学校	見附市立今町中学校	見附市立上北谷小学校（新）
見附市立葛巻小学校	見附市立新潟小学校	見附市立西中学校（新）
見附市立見附小学校	新潟市立関屋小学校（新）	新潟市立有明台小学校（新）

## **地域・団体・企業等**

### **○地域防災や防災教育の相談、講師、イベント、研修会等 33 団体 延べ 70 回以上**

(一社) 日本防火・防災協会（原稿執筆）

越後天然ガス株式会社（小学生向け出前講座プログラム作成）

株式会社エヌ・シィ・ティ（子ども向け防災教育映像の共同作成）

株式会社エコロジー・サイエンス（分水サミット学校サポート・分水サミット運営支援）

（公社）中越防災安全推進機構（中越大震災メモリアル基金事業）

国土交通省信濃川河川事務所（分水サミット学校サポート・分水サミット運営支援）

胎内市総務課（令和4年度 胎内市防災士連絡協議会講座）

特定非営利活動法人多世代交流館になニーナ（母子向け防災講座・防災フェスタ）

特定非営利活動法人くらしサポート越後川口（親子向け防災イベントの実施）

長岡技術科学大学（防災ワクチン™学習教材の開発支援業務）

長岡市子育ての駅 すこやか・もりもり・やまっこ（母子向け防災講座）

長岡市川崎コミュニティセンター（親子向け防災講座）

長岡市川崎5丁目自主防災会（地域向け防災講座）（新）

長岡市下川西コミュニティセンター（親子向け防災イベント・地域向け防災講座）（新）

長岡市危機管理防災本部（総合防災訓練運営支援）

長岡市青葉台地域連合自主防災会（青葉台中学校区 合同防災訓練の企画支援）

長岡市宮本地域連合自主防災会（青葉台中学校区 合同防災訓練の企画支援）

長岡市大積地域連合自主防災会（青葉台中学校区 合同防災訓練の企画支援）

長岡市青葉台コミュニティセンター（青葉台中学校区 合同防災訓練の企画支援）

新潟市北区太田地域コミュニティ協議会（防災訓練の企画・運営支援）

新潟市北区地域総務課（自治協議会防災イベント事業の相談・提案）

新潟市北区自治協議会（自治協議会防災イベント事業の相談・提案）

新潟市北区防災士の会（自治協議会防災イベント事業の相談・提案）

新潟市北区豊栄地区公民館（地域絆事業 防災講座）

新潟市防災士の会 西蒲支部（地区防災計画研修会・防災教育研修会）（新）

新潟市南区小林地区自主防災会（防災訓練の企画・運営支援）（新）

兵庫県立大学院大学院減災復興政策研究科（講義）

ホリカフーズ株式会社営業部（学校とのコーディネート）

水澤電機株式会社（防災ワクチン™学習教材の開発支援業務）

TeNY サービス（パッククッキングや食の備えに関する番組作成）

新潟県社会福祉協議会（令和4年8月豪雨 災害支援）（新）

村上市社会福祉協議会（令和4年8月豪雨 災害支援）（新）

赤い羽根共同募金会（令和4年8月豪雨 災害支援）（新）

見附市葛巻地区コミュニティセンター（親子防災イベント）

## 参考資料2 メディア等で取り上げられた活動（2022.4.1～2023.3.31）

### 1) 学校の防災教育支援事業

新潟日報 2022/6/14

#### 新潟市立白南中学校での防災教育支援



#### 防災知識 身に付けて 南区

防災に必要な知識と技を身に付け、災害時に地域の役に立てる人材を目指すと、白南中で防災教育が開かれた!! 実践!! 全校生徒116人が参加し、災害への備えを学んだ。

海に近い同校は地震発生後、30分以内に津波が到達するとする。15年以上前から住民と一緒に、地震や津波を想定した避難訓練を行ってきたが、災害についてじっくり学ぶ機会は少なかった。21・22年はウィルス禍で訓練が中止になった。

このため、訓練ができる地域で命を守る大切なことを学んだ。このため、訓練ができるところまで取り組みを取り組むことにした。

元関係者がこれまで取り組んできた避難訓練の様子を児童らに紹介した。金洋輔教頭(55)は「地域のつながりが、命を守れるかどうかに関わってくる。誰一人命を失うことのないよう、子どもたちに考えたためにはどう行動するのかあらためるためにどう行動するのかあらためて確認しよう」と呼びかけた。

3年生の星野さん(13)は「災害は起きるので、臨機応変に対応できることを考えたい」と話した。

**新潟市立有明台小学校での防災教育支援**

新潟日報 2023/2/3

#### 新潟市立有明台小学校での防災教育支援



#### 災害時、命 地域で守る 有明台小 備え、歴史を学習



防災について理解を深める有明台小の6年生=新潟市中央区

**新潟市中央区の有明台小学校が、地域と連携した防災学習に取り組んでいる。**

2022年度、総合的な学習のカリキュラムに「防災」を取り入れ、6年生が住民の命を守るにはどう行動したらよいかを考え、学びを深めている。

海に近い同校は地震発生後、30分以内に津波が到達するとする。15年以上前から住民と一緒に、地震や津波を想定した避難訓練を行ってきたが、災害についてじっくり学ぶ機会は少なかった。21・22年はウィルス禍で訓練が中止になった。

このため、訓練ができるところまで取り組みを取り組むことにした。

元関係者がこれまで取り組んできた避難訓練の様子を児童らに紹介した。

金洋輔教頭(55)は「地域のつながりが、命を守れるかどうかに関わってくる。誰一人命を失すことのないよう、子どもたちに考えておられたためにはどう行動するのかあらためて確認しよう」と呼びかけた。

**新潟日報 2023/2/18 長岡新聞 2023/3/9**

#### 防災まちづくり大賞総務大臣賞受賞

新潟日報 2023/2/18 長岡新聞 2023/3/9

#### あるさと未来創造堂が受賞 「防災まちづくり大賞」

第27回「防災まちづくり」の構築（御用聞き）が、NPO法人「ふるさと未来創造堂（福井県）」が高く評価されるもので、NPO法人「ふるさと未来創造堂（福井県）」が高く評価される。同賞は総務省（消防庁）の主催で、阪神・淡路大震災発生時に「109年ぶりの大震災」が発生された。2月28日、震度6弱の京都千代田区で式典が開かれた。

受けて市内小中学校を対象に、持続可能な防災教育を推進するための組織や支援体制構築に取り組んでいた。

市などからの委託を受け、市内小中学校を対象に、持続可能な防災教育を推進するための組織や支援体制構築に取り組んでいた。同賞は総務省（消防庁）の主催で、阪神・淡路大震災発生時に「109年ぶりの大震災」が発生された。2月28日、震度6弱の京都千代田区で式典が開かれた。

受けて市内小中学校を対象に、持続可能な防災教育を推進するための組織や支援体制構築に取り組んでいた。

8



NCT ながおか  
ケーブルテレビ  
「ゲツキン」  
2023/3/7

防災まちづくり大賞  
総務大臣賞受賞

長岡のNPO法人・ふるさと未来創造堂

## 防災まちづくり大賞最高賞



東日本大震災の被災地支援について語る「ふるさと未来創造堂」のメンバーによる  
市千手の手本

地域と連携した防災教育を進める長岡市のNPO法人「ふるさと未来創造堂」が、総務省消防庁主催の第27回防災まちづくり大賞で最高の総務大臣賞を受賞した。被災地支援の経験者によるさまざまな市民とともに、小中学校の防災学習を支える体制を築いてきたことが評価された。未来創造堂は「中越地震の教訓を次世代につなげたい」と試行錯誤してきた。これからも学校の伴走者として寄り添いたい」と感想を喜んでいた。

## 地震の教訓 次代につなぐ

### 学校のニーズに対応 学習計画や講師手配

5年生の授業では、11年の東日本大震災や16年の熊本地震の被災地支援をしてきた河内沙苗さん(42)(長岡市)が講演した。消防署や仮設住宅の小中学生が、支援物資の配布や高齢者への声かけを担当した様子を説明。「できる人ができることをするのがいいよね」と語りかけた。

千手小の担当教諭は未来創造堂の支援に対し、「担任が教材から情報を得て話すのは限界がある。毎年テーマを提案してもらえて助かる」と話した。未来創造堂の中野雅嗣事務局長(43)は「一人のつながりが防災力の強化になる。防災に関わる人や中越地震の経験を持つ人々のつながりを、今後も増やしたい」と目標を語った。

新潟日報

2023/3/18

防災まちづくり大賞  
総務大臣賞受賞

防災まちづくり大賞は、阪神淡路大震災をきっかけに1996年度に創設され、地域で根ざした防災に関する取り組みを表彰している。2022年度は全国の団体が応募し、総務大臣賞には3団体が選ばれた。

ふるさと未来創造堂は15年設立。

中学生による「防災かべ新聞コンクール」を主催するほか、市の委託を受け17年4月からは、市内の全小中学校で防災学習の支援に取り組んできた。担当教諭が異動しても防災教育を継続できました。

今は、千手小で3回間にわたる防災講座を実施した。御用聞きを通して学校側の要望を聞き取り、未来創造堂が計画作りや講師の手配をした。

5年生の授業では、11年の東日本大震災や16年の熊本地震の被災地支援をしてきた河内沙苗さん(42)(長岡市)

が講演した。消防署や仮設住宅の小中学生が、支援物資の配布や高齢者への声かけを担当した様子を説明。「できる人ができることをするのがいいよね」と語りかけた。

千手小の担当教諭は未来創造堂の支援に対し、「担任が教材から情報を得て話すのは限界がある。毎年テーマを提案してもらえて助かる」と話した。

未来創造堂の中野雅嗣事務局長(43)は「一人のつながりが防災力の強化になる。防災に関わる人や中越地震の経験を持つ人々のつながりを、今後も増やしたい」と目標を語った。

## 4) 安心安全なまちづくり支援事業



NHK 2022/10/6

北区自治協議会提案事業

「目指せ！地域防災力向上！」

## 5) よりよい未来を創る事業

### 児童信濃川の恵み学ぶ 「分水サミット」で発表

2022/11/27 05:00

この記事をスクラップする [f](#) [t](#) [e](#)



川について学んだことを発表する児童ら（26日、新潟市内のホテルで）

大河津分水路（燕市、長岡市）の通水100周年と、関屋分水路（新潟市）の通水50周年を記念し、信濃川流域の9市町村の9小学校の児童代表37人が集い、川について学んだことを発表する「分水サミット」が26日、新潟市のホテルで開かれた。

同市や国土交通省信濃川河川事務所などでつくる両分水路の周年事業実行委員会が、記念の年に川のことを知り、未来へつなげてほしいと企画した。

読売新聞オンライン

2022/11/27 分水サミット

サミットでは、代表の児童が、それぞれの学習成果をスクリーンに映し出して発表した。川は水害をもたらす一方、豊かな自然や水の活用など恵みをくれることなどをまとめたほか、分水路の魅力を磨くアイデアなども提案した。燕市立分水小4年の女児（10）は「大河津分水路はいろんな人を守ってきたということを、多くの人に知ってもらえた」と喜んでいた。

NCT ながおかケーブルテレビ

2022/12/13 ゲッキン

子ども防災未来会議®2022



県内の小中学生が防災や減災について考える「子ども防災未来会議」が、長岡市大手通の長岡震災アイカイフセンター（おくみらい）で開かれた。遊びながら学べるオリジナルの防災トランプ作りを通じ、学習の成果を胸に刻んだ。「防災かべ新聞コンクール」の表彰式も行われた。

長岡市のNPO法人あるさと未来創造堂が主催。新潟日報社が2014年に行つた防災かべ新聞コンクールを開き継ぎ、毎年開催している。10日の会議には会場に30人、オンラインで17人の小中学生らが参加した。

## 防災アイデア トランプに

長岡で「こども会議」楽しく備え学ぶ



防災について学んだ「こども防災未来会議」＝長岡市大手通2

**記者 つれづれ**

長岡支社  
貴宏  
見小見  
○：県内の小中学生が作った防災トランプを販売した。昨年末に震や水害だけではなく、昨年末には中下越を中心に大雪に見舞われ、長岡市や柏崎市などの幹線道路で立ち往生や渋滞が発生した。3年前にも関越道で大規模な立ち往生があったばかりで、改めて雪解説し、見出しやクイズ形式で興味を引く工夫。子どもたちの伝えたいという思いが感じられた。○：近年は30年に一度の大雪が頻発したり、夏場が連日酷暑になつたりと、災害級の異常気象があつたりと、災害への備えをしっかり考えたい。

## その他



2023/2/3 TeNY

新潟一番「ガタトピ」

パッククッキングの紹介

## 1. 学校防災教育の支援事業

### <地域防災教育事業委託>

委託機関：長岡市危機管理防災本部

実施期間：令和4年4月～令和5年3月

長岡市では、学校の負担軽減と地域と連携した持続可能な防災教育の推進を目指している。防災教育を行う際に参考になるプログラムや資料などが入っているコンテンツ「防災玉手箱」を平成29年に市内全小・中学校に設置。同時に、地域のセンターが定期的に学校を訪問する仕組み作りや、講師派遣・授業計画時の相談等の総合窓口を当法人で担当している。

また、これまで学校のみを対象としていた防災教育の推進を、子ども会やPTA、地域にまで拡大し、子ども会等を対象とした防災講座の実施や、商業店舗やイベントにサロン形式で出展を行った。

さらには、令和2年度に作成した長岡市版マイ・タイムライン「わが家の防災タイムライン」を各校の教職員が授業を行えるよう、「指導者用のスライド資料及び解説資料」を作成した。

① 市内82校を対象とした防災教育の推進支援

	2017	2018	2019	2020	2021	2022
個別相談・打合せ	27回	47回	92回	71回	100回	97回
講座実践 (講師派遣含む)	35回	69回	51回	58回	59回	71回
その他(教材・資料の提供・貸出等)	7回	30回	50回	86回	82回	87回
合計	24校 69回	47校 146回	40校 193回	27校 215回	39校 241回	34校 255回

### 長岡市立青葉台中学校区 子どもと大人が共に学ぶ、学校区全体での学校・地域合同防災訓練

令和4年9月11日(日) 8:30～12:00 対象：全校の児童・生徒及び教職員、地域住民(450名以上)



青葉台中学校区全体で学校・地域合同での防災訓練を4会場(青葉台中・青葉台小・大積小・宮本小)で同時刻に実施した。訓練を通じて子どもたちと地域が一緒に防災を学ぶ機会を通じて、新型コロナウイルス感染症の拡大によって希薄化していた学校と地域の交流機会を実現することが出来た。学校・地域とも本活動への評価と期待が非常に高く、次年度以降も学校と地域が連携し、防災訓練を地域一体での防災教育機会として継続していく予定。

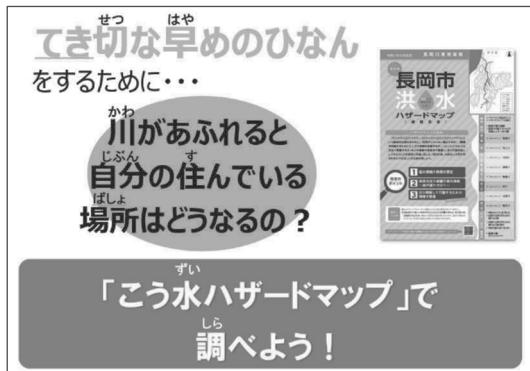
② 防災サロンの開催

大型商業店舗、公共施設でのイベントに出展し、親子で楽しみながら防災について学べる企画を3回実施した。

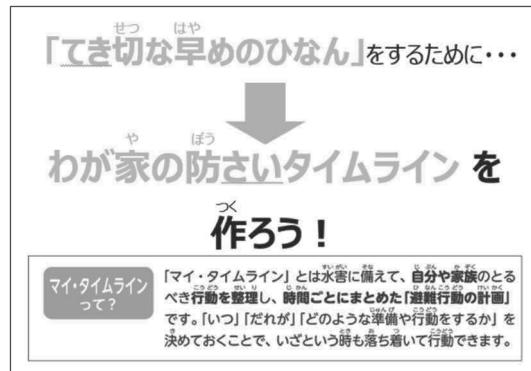
(参加者数：延べ450人以上)



③ 指導者用のスライド資料



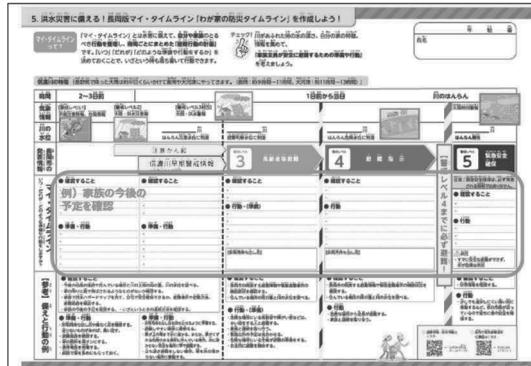
小学校 4 から 6 年生向け講座（HM の学習）



小学校 4 から 6 年生向け講座（タイムライン）

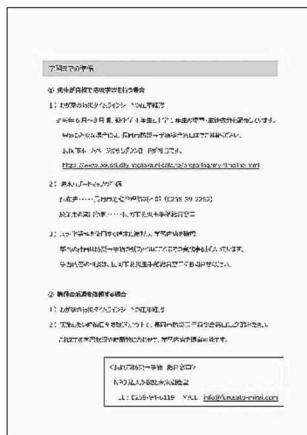


小学校 4 から 6 年生向け講座（HM の学習）



小学校 4 から 6 年生向け講座（タイムライン）

④ 指導者用の解説資料



＜新潟市南区内中学校・高校防災学習支援業務＞

委託機関：新潟市南区地域総務課

実施期間：令和 4 年 4 月～令和 5 年 3 月

南区内の中学校及び白根高校の生徒が災害時に地域の一員として活躍する姿を目指して、防災面における自助・共助・公助についての学習、体験する場を設けた。

6 中学校の防災教室は、「地震」「水害」「火災」など各学校の学習テーマに合わせて協議のうえ決定した。

白根高校での学習支援は、前年度に引き続き、新型コロナウィルス感染症の影響から中止となった。

## 新潟市立月潟中学校 避難所開設訓練から考える！地域の一員として中学生にできること

令和4年11月8日（火）13：40～15：30 対象：全校生徒（83名）



災害時の避難所の様子、開設時に必要な受付・集計・報告の役割や必要性について学習した後、所属自治会ごとのグループに分かれ、避難者受付カードの記入や集計・報告の体験を行った。体験を通して、実際に月潟中学校が避難所になった際の困りごとや解決策をグループで話し合いを行い、全体共有を行った。

避難した後の工夫として、新聞紙食器作りや毛布担架搬送体験を行い、地域の一員として災害時に何ができるか、日ごろからどんな準備が必要か具体的にイメージし、考える学習を実践することができた。

### 【参加者の声】

- ・大人だけに頼らず、自分たちが日ごろから活用しているタブレットで集計を手伝ったり、校内の誘導を担当したり、できることを積極的にやっていきたい。

## ＜西蒲区中学校防災体験学習及び事業の中間評価のための調査業務＞

委託機関：新潟市西蒲区地域総務課 実施期間：令和3年4月～令和5年3月

西蒲区は8区で最も高齢化率が高く、2031年には高齢化率が37.8%になると予想されている。そのため、地域の未来を担う中学生への防災教育に力を入れ、学校・地域・家庭が連携し、継続していく防災共育の内容と支援体制を検討する。

令和4年度は全6中学校の生徒を対象に、体験型防災学習プログラムの体験を通して、地域の高齢化に対する対策や災害時の避難行動要支援者となる高齢者や肢体不自由等の障がいを持つ方に対し、自分にできることを考える学習を実施した。

また、前年度に整理した継続に向けた課題と地域の教育資源（人材）の整理から、活動の継続性を支える可能性が高い新潟市防災士の会西蒲支部の防災士を対象とした勉強会・OJTに着手した。

## 新潟市立岩室中学校 居住地域の災害リスクを知り、災害から自分や家族を守る行動を考える



令和4年10月7日（金）9：40～11：30

対象：全校生徒（169名）と地域の大人（12名）

居住地域別のグループに、地域のコミュニティ協議会や防災士等が加わり、生徒と大人が一緒に防災学習を行った。

新潟市総合ハザードマップの見方を学習した後、地域内の災害リスクをグループで確認し、特に心配な自然災害とその災害が発生しそうな時・発生した時に、日ごろからできる準備や自分と家族を守る避難行動について話し合いを行った。

地域の高齢化率や災害時の命を落とす人のほとんどが高齢者であることなどを知り、皆が自然災害から命を守れる地域を目指して自分たちに何ができるか考え、グループの大人や他グループへ発表を行った。地域の大人と活動を行うことで、より深く地域について学び、地域への興味・関心が高まる活動となった。



### 【参加者の声】

- ・知らなかった地域のことを知れてよかったです。避難所に避難すれば大丈夫と思っていたけど、避難した先で亡くなる方もいることを知った。事前に家族と話し合い、日ごろから地域の人と挨拶して助け合える関係をつくっていきたい。

## 防災共育センター養成講座 福祉×防災の体験（白杖体験・視覚障がい者との交流・車いす操作体験）



令和4年11月6日（日）10：00～12：00

対象：西蒲区防災士（12名）

西蒲区社会福祉協議会と連携し、体験活動を行った。

区内中学校で実践している学習の流れを紹介した後、視覚障がいの方から、災害時の不安や理解・支援してほしいことなどをインタビュー形式でお話いただいた。

「白杖を使用したブレインドウォーク・車いす操作体験」を2人1組で体験し、学校防災教育だけでなく、地域の訓練や災害時にも生かすことができる体験を実施した。

体験後、巻西中学校にて、6名の防災士がOJTを行った。

### 【参加者の声】

- 直接当事者（視覚障がいの方）からの話を聞くことができたことがとてもよかったです。声のかけ方、伝える工夫なども知ることができ、勉強になりました。
- 実際にやったことがあるのとないのでは全然違うと感じた。地域の訓練でも取り入れてみたいと感じた。学校のサポートもぜひやってみたい。



## <防災ワクチン TM 学習教材の開発支援業務>

委託機関：国立大学法人 長岡技術科学大学 実施期間：令和4年4月～令和5年3月



昨年度実施した指導者用教材資料の作成支援からの延長で、学習教材ブレーカーキットの製品化に向けた助言やプログラム実践のための学校現場とのコーディネートを行い、ブレーカーキットの完成を支援した。

令和5年度からは、当法人でも完成した教材を活用した防災教育プログラムを学校・地域等で実施していく予定。

## <その他学校防災教育支援業務>

### 委託業務以外での講師派遣や学習計画の相談・立案・資料提供などの支援業務 115校・5団体

- 新発田市教育委員会「小学校防災キャンプ事前研修会」 新発田市立小学校 15校
- 上越市教育委員会「防災教育研修会」 新潟市教育委員会「防災教育研修会・報告会」
- 上越市立小・中学校 70校 県内小・中学校 29校 (社福) 上越市社会福協議会
- 新潟県立新潟県央工業高等学校 京都市立堀川高校 PTA「一期一会」勉強会

## 胎内市立黒川小学校 PTA

### 楽しく学ぼう！PTA 親子防災教育



令和4年9月9日（金）15：30～16：30 対象：全校児童と保護者

PTA 親子活動として、家庭の備えや家具固定に関するクイズと身近なものを工夫した防災グッズ作りの体験を楽しく実践した。

### 【参加者の声】

- 今年の洪水では自分たちは被害がなかったけど、改めて家庭の備えについて考えるきっかけになった。親子で一緒に楽しく学べる機会で参加してよかったです。

## 上越市教育委員会 令和4年度 防災教育研修会

令和4年11月28日（月）14：30～16：30 対象：上越市内小・中学校の管理職または防災教育担当職員

上越市教育委員会主催の防災教育研修会にて、ICTツールを活用し、東日本大震災の教訓を生かした避難所運営ゲーム「さすけなぶる」の体験を行った。



### 【参加者の声】

- ・防災学習というと、「災害にならないように」「災害に合わないように」「命を助けるために」といったイメージでいたのですが、「助かった命をどう活かし、人らしく生活していくには何が必要か」といった視点に、初めて触れることができました。中野様の避難所でのお話を伺って、せつない気持ちになりました。心に残ったいくつかの言葉を心の留め置き、来年度の防災教育について、考えてみたいと思います。

## 2. 地域及び家庭の防災教育支援事業

### ＜出前講座用プログラムの作成支援＞

委託期間：越後天然ガス株式会社    実施期間：令和4年4月～7月



ライフラインを取り扱い、地域密着型企業の特色を活かした防災を切り口とした出前講座プログラムの開発及び指導者用の教材作成支援を行った。

大きな災害後に電気・ガス・水道・インターネット等が使えなくなる状況を知り、家庭での備えを考える学習プログラムとスライド資料を作成した。

### ＜その他地域及び家庭の防災教育支援業務＞

乳幼児のいる家庭向け防災講座を4施設で計6回、地域・大学に防災講座や研修会、親子向け防災講座等を計12回実施した。



- ・胎内市防災士連絡協議会 地区防災計画研修会
- ・長岡市子育ての駅「ぐんぐん」「すこやか」「やまっこ」「もりもり」防災講座
- ・長岡市川崎コミュニティセンター 親子向け防災講座
- ・長岡市下川西コミュニティセンター 地域向け防災講座 2回
- ・長岡市危機管理防災本部 総合防災訓練運営支援
- ・新潟市防災士の会 西蒲支部 地区防災計画研修会
- ・新潟市南区小林地区自主防災会防災訓練
- ・新潟市北区太田地域コミュニティ協議会 防災講話
- ・新潟市豊栄地区公民館 地域絆事業防災講座
- ・兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 コミュニティ防災計画 講話
- ・見附市葛巻地区コミュニティセンター 親子防災イベント 等

### 3. 防災教育の推進に関する交流・イベント事業

#### <川口きずな館 防災イベント企画運営支援（長岡市）>

令和4年9月18日（日）11：00～14：30 会場：川口きずな館 対象：長岡市内の子どもとその家族



前年度に引き続き、中越大震災メモリアル施設川口きずな館から親子が楽しみながら防災について学べる体験型イベントの企画・運営支援を行った。イベント当日は、水消火器の体験、応急手当、防災カードゲーム等を行った。

新型コロナの感染により、派遣を予定していた職員の参加が困難になったが、長岡市防災共育センターを中心に、当日の運営を支えることができた。

#### <見附市立葛巻小学校 イザ！カエルキャラバン in くすまき 開催支援>



令和4年2月22日（水）10：00～12：00 対象：3、4年生の児童（142名）

見附市立葛巻小学校4年生が1年間の総合的な学習の時間での学びの成果を3年生に伝える機会として、学校と当法人の主催で「イザ！カエルキャラバン！inくすまき」を開催した。

自分たちよりも下の学年に対し、防災の大切さが伝わるように様々な工夫を凝らし、皆が楽しみながら防災について学べる機会を実現した。

### 4. 安心安全なまちづくり及び地域づくりの支援事業

#### <北区自治協議会提案事業「めざせ！地域防災力向上！」運営支援>

委託機関：新潟市北区地域総務課

実施期間：令和4年4月～令和5年2月



楽しみながら防災・減災を学べるイベントを新しい防災訓練の考え方として地域に定着させ、持続可能にするために、今年度は地域コミュニティを対象とした研修会及びイベント当日の運営サポートを実施した。

研修会を通して、自治協議会委員・防災士と共に①濁川コミュニティ協議会②木崎小学校PTA体育部にて、親子で楽しく学べるイベントを実施することができた。

今後は実施を希望する団体へ物品の貸出等を地域総務課で実施する予定。

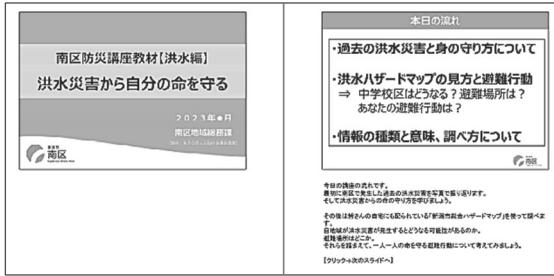


#### 【自治協議会委員の声】

- ・このイベントをきっかけに北区から女性防災士が2名誕生した。今後も期待！
- ・地域の防災訓練に参加しない世代が参加していたのでとてもよかった。学校でもすごく楽しかったと話題になり、もっと多くの団体が関わっていくとよい。
- ・中学生ボランティアの参加を見た未実施の地域から、「中学生が中心となって幼い子どもや親世代を指導する機会にもなってよい」との声が届いている。

## <南区防災講座教材作成業務>

委託機関：新潟市南区地域総務課 実施期間：令和4年4月～令和5年3月

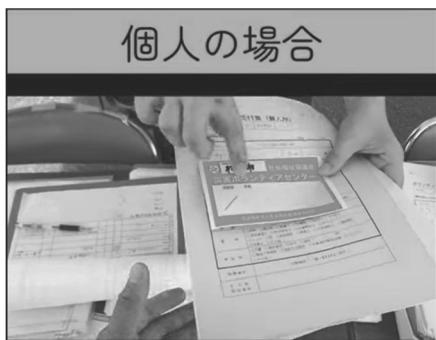


担当課や区内の防災士による自主防災組織の訓練や勉強会、小学校等を対象とした出前講座の実施に向けて、講師が出前講座で使用する「読み原稿付きのスライドデータ 3 種（一般編・地震編・水害編）」を作成した。

次年度は資料の活用支援に取り組む予定。

## <令和4年8月豪雨 災害支援>

支援先：村上市災害ボランティアセンター 実施期間：令和4年8月～10月



新潟県社会福祉協議会の要請を受け、令和4年8月3日からの大雨によって被災した村上市の災害支援として、村上市災害ボランティアセンターの運営支援を行った。活動資金は赤い羽根共同募金災害ボランティア・NPO活動サポート募金（ボラサポ・令和4年8月豪雨）を活用した。初の運営支援に混乱と忙殺されている地元社会福祉協議会職員が少し先のことを考えられるよう、属人的な業務を分配し、手が回らないこと代わりに行う等、キーマンの余裕を作り出す支援を実施した。また、応援社協職員の引継ぎを簡略化するために、引継ぎ用動画を作成した。

## 5. よりよい未来を創る事業

### <長岡市中越メモリアル基金事業> こども防災未来会議②2022 及び防災かべ新聞展示会の開催

令和4年12月10日（土）10:15～12:30

会場：長岡震災アーカイブセンターきおくみらい及びオンラインでのハイブリッド開催

参加者数：合計67名（内、会場での参加 30名、オンライン参加 17名、引率者・参観者 20名）

YouTubeLive 視聴者数：約140名（保護者等）

#### 1. 防災かべ新聞コンクール表彰式・発表会



会場・オンライン上で表彰式を実施。グランプリチームの発表演像を上映し、子どもたちから「他の学校の人はどうな新聞を書いたのか、何を伝えたいのかなど画面越ししかけて良かった」との声があった。

#### 2. 2022年度こども防災未来宣言ディスカッション「伝えたい大切なことをトランプにしよう！」



これまでの防災学習で学んできたことを振り返りながら、身近な友人や知人、年下の子どもたちにも伝えたい大切なことをトランプに込めて、遊びながら防災についても学べる「Bosai みらいトランプ」のアイディアを考えた。

一人一人のトランプ案を製品化し、参加校及び配布を希望する児童・生徒に完成品を配布した。作成したトランプは、今後、当法人の活動に活用していく。



### 3. 防災かべ新聞展示会

令和4年12月5日（月）～令和5年1月30日（月）

来場者 約500名

中越（フェニックス大手イーストスクエア）、上越（かしわざき市民活動センターまちから）、下越（新潟ふるさと村）エリアの計3施設で、防災かべ新聞の展示会を実施した。

## ＜分水サミット運営支援及びモデル校のサポート＞

委託機関：（株）エコロジーサイエンス

実施期間：令和4年4月～令和5年3月



大河津分水通水100周年事業の一環として、県内の信濃川流域（支流含め）市町村で川について学んだ学校を集めて開催する記念事業「分水サミット」の企画・運営支援及びモデル校2校の学習サポートを行った。

「分水サミット」の企画・運営支援では、会場候補の選定・当日の企画進行案の作成・各モデル校への案内文の作成と取りまとめ・会場業者及びライブ配信業者との調整・当日の運営支援等を実施した。



モデル校サポートでは、三条市立嵐南小学校（環境学習の企画・支援、パックテストを活用した水質検査と水質汚濁に関する講座の実施）及び見附市立葛巻小学校（防災学習の企画・支援、教材の提供やコーディネート、ライフジャケットの着用方法や救助道具の作り方を学ぶ講座の実施）の学習を支援した。

## ＜今とこれからの教育を大人が学ぶ勉強会「まなびのミライ」の開催＞

令和4年12月10日（土）10：15～12：30 及び令和3年12月13日（月）～令和4年3月7日（月）

会場：まちなかキャンパス長岡、長岡市社会福センタートモシア、長岡市中央公民館

参加者数：延べ121名



長岡市でもCS（コミュニティ・スクール）が導入され、「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の実現を目指し、大人が今とこれからの教育を学び、交流する全4回講座を企画・開催した。

長岡市在住の大人を中心に参加者募集を行ったが、市内のみならず、見附・新潟・上越・十日町方面からも参加者が集まり、全4回とも参加者から高い満足度を得る機会にすることができた。

まなびのミライの開催を通じて、防災を切り口としているのみでは繋がれない仲間と出会うことができ、このつながりを既存の業務や今後の活動にも活かしていきたい。

## 6. 情報発信事業

### <株式会社 エヌ・シイ・ティ、TeNY サービス 防災教育映像コンテンツの共同作成>



ながおかケーブルテレビと、放送地域の住民や子ども向けの防災教育に関する映像コンテンツを共同作成した。

「自然災害の備え編」「自然災害からの身の守り方編」の計 2 本の映像コンテンツを作成し、放送地域の住民や子どもに、防災をもっと身近に考える機会を提案した。

※作成した映像コンテンツは、当法人の YouTube チャンネルでも配信中



TeNY サービスと、災害時に電気・ガス・水道等が使えない時でも温かく普段に近い食事を摂る方法パックッキングの紹介番組を作成した。

災害時のみならず、日常から使える時短クッキングとしても活用できることも紹介した。

### <総務省消防庁 第 27 回防災まちづくり大賞 「総務大臣賞」受賞>

長岡市の全 82 の小・中学校（令和 5 年度から統廃合により 81 校）の学校防災教育を、防災士、地域の保護者等、様々な方が皆でサポートする形を継続して 6 年。この仕組みと成果について「第 27 回防災まちづくり大賞（主催：総務省消防庁）」に申請し、長岡市における持続可能な防災教育体制の構築が「総務大臣賞」を受賞し、対外的な評価をいただくことができた。



**第27回 防災まちづくり大賞 表彰式**

**総務大臣賞**

新潟県長岡市における  
持続可能な防災教育体制の構築  
～「街角商店」がつなぐ、  
学校・地域・家庭の防災教育～

【PR】NPO 法人あるさと未来創造室

設立年 平成27年3月

所在地 長岡市

TEL:0258-94-6119

FAX:0258-94-4582

E-mail:noritetsub-wan@nifty.com

登録年 平成29年4月

新潟県は平成27年3月企画の一環で学校等に実践的防災教育プログラムを配置した。一方、学校周辺は、多忙な通勤通学が毎日のようにあり、プログラムが実施に負担をもたらすなど、実施を躊躇していた。長岡市では実践的防災教育の普及から生まれた防災教育を学校だけでなく、家庭の防災力向上と地域の連携、協働で実現へと繋げた。持続可能な防災教育実践の結果が評価された。

設立の背景

「行政の防災教育・教育部局」とが連携し、毎年更新する教材「長岡市防災手帳」を公認の会員小学校にて運営。

連合利根窓の位置 (地図、資料提供)、開催の消息、地域外連絡のコードイニット、地域資源活用、広報誌発行、ホームページでの情報発信等を行っている。

「防災まちづくり」(令和元年の学校法人と公民学校を運営する)による教材の差し替えなどを含む毎年の学校法人と公民学校を運営する。

「街角商店」及びパートナー(防災実習支援者の)の責任。

実践的な防災教育を年に2回以上にわたり開催しており、地域等と連携した学習に取り組んでいるところ。

地域人材と連携することで、地域一丸として貢献したいと願う子どもが増加した。

地域資源に配慮した「街角商店」による毎年の実践的防災教育が毎回2件つながり、担当教諭の転出等による学年単位の難易度を持続する機能を果たしている。

学校との連携ばかりでなく「街角商店」の考え方や行動が社会的に認知につながり、防災意識の転出等による学年単位の難易度を持続する機能を果たしている。

学校との連携ばかりでなく「街角商店」の考え方や行動が社会的に認知につながり、防災意識の転出等による学年単位の難易度を持続する機能を果たしている。

地域人の児童・青年は取り組み、現在50名の方々と活動を展開中。

**選定委員 Comment**

近年の若育において、学校と地域や、歴史との環境等との連携が進むようになってきているなか、本賞は地域力を発揮して地域向上に寄与できることができると評価を受けている功績を有している。

学校と地域の壁を取り払うために大きな役割を果たす取り組みが評価されるべきである。この「防災手帳」もメンテナンスをタスクとして定期的に更新され、地域の人材と教育系で定期的に情報を共有・意見交換を通じる機会が持続されている。その結果に「街角商店」が学校の防災教育を充実しつづけるのではなく、教育資源をパートナーする組織を育て、学校と地域の防災教育の文脈をつなぎながら、より良い防災教育を実現する。長岡市内の小中学校にてして年2回開催されている「街角商店」の「防災まちづくり」の声が「子どもと関わることで何よりも喜びを感じている」と語られたことが印象的だ。ぜひ他の自治体の中でも、地域の防災力を高めることに取り組んでほしい。

